



平成 26 年 10 月 30 日  
福 祉 保 健 局

## 『障害者の生活実態』の結果 ～平成 25 年度東京都福祉保健基礎調査～

平成 25 年度東京都福祉保健基礎調査「障害者の生活実態」における主な調査結果について、このたび報告書としてまとめましたので、お知らせします。

**【身体障害者】** しごと うえ こま そうずう つうきんじ こんざつ わりあい もっと たか  
仕事をしついで困ることは、総数では「通勤時の混雑」の割合が最も高いが、  
しょうがい しゅるい こま こと  
障害の種類によって困ることが異なる

- ・ 仕事をしついで「困ることがある」と答えた割合は 52.7%、「困ることは特にない」が 43.3%であった。困ることの内容は、「通勤時の混雑」の割合が 11.8%と最も高い。
- ・ 障害名別にみると、視覚障害では「仕事の内容」(17.2%)、聴覚障害では「相手の言っていることが分からない」(46.2%)、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」(45.9%)の割合が他の障害よりも高くなっている。また、肢体不自由(体幹)及び肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では「通勤時の混雑」(29.4%、22.2%)、内部障害では「定期的な通院や健康管理との両立」(17.2%)の割合がそれぞれ他の障害よりも高いのが目立つ。
- ・ 仕事の種類別にみると「困ることがある」の割合は正規の職員・従業員で高く 59.9%であった。

### 【調査結果の概要 P 1 0】

**【知的障害者】** ちいきせいかつ うえ いりよう じゅうじつ ひつよう こた わりあい ねんどちょうさ  
地域生活をする上で「医療の充実」が必要と答えた割合は、20年度調査よりも 8.5  
じょうしょう  
ポイント上 昇し 22.5%

- ・ 地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ「所得保障」の割合が 28.0%と最も高く、次いで「障害者が暮らしやすい住宅の整備」が 23.1%であった。
- ・ 20 年度調査との比較では、「医療の充実」の割合が 8.5 ポイント増加し 22.5%となった。

### 【調査結果の概要 P 2 4】

**【精神障害者】** こんごりよう ふくし とう そうだん ちいきかつどうしえん わりあい  
今後利用したい福祉サービス等は、「相談サービス(地域活動支援センターなど)」の割合  
もっと たか ねんどちょうさ ぞうか  
が最も高く、20年度調査よりも 2.3 ポイント増加し 22.0%

- ・ 今後利用したい福祉サービス等を聞いたところ、「相談サービス」(22.0%)、「就労支援サービス」(20.5%)、「情報提供の充実」(17.9%)の割合が高く、20 年度調査と比べて「相談サービス」の割合が 2.3 ポイント増加した。
- ・ 年齢階級別にみると「就労支援サービス」の割合は 30 代で最も高く 40.8%となっている。

### 【調査結果の概要 P 3 1】

**【難病患者】** しごと うえ こま ていきてき つういん けんこうかんり りょうりつ わりあい  
仕事をしついで困ることは、「定期的な通院や健康管理との両立」の割合が 29.1%  
もっと たか  
で最も高い

- ・ 仕事をしついで「困ることがある」と答えた割合は 51.7%、「困ることは特にない」が 44.1%であった。困ることの内容で最も高い割合だったのが「定期的な通院や健康管理との両立」の 29.1%で、次いで高かった「急な体調の変化への配慮がない」の 11.5%よりも 17.6 ポイント高かった。
- ・ 仕事の種類別にみると、正規の職員・従業員では「定期的な通院や健康管理との両立」が 36.7%と高い割合を示した。

### 【調査結果の概要 P 3 5】

